

## 自分のトレード手法の身に付け方

トレードには様々な手法が存在します。

移動平均線やボリンジャーバンド、MACD やストキャスティクスといったインジケータを利用した手法や、エリオット波動やフィボナッチ・リトレースメント、プライスアクションを用いた手法、他にもドルコスト平均法による月々の積み立ても立派なトレード手法ですし、年に数度株価が暴落した時に高配当株を買い増しするといったことも有効なトレード手法の一つです。

そんな多岐にわたるトレード手法ですが、FXトレードで勝つためにはどのような手法がよいのでしょうか。

残念ながら **普遍的な最適解はありません。**

なぜなら相場環境は日々変わってゆくものですし、さらには各個人の性格や資金、リスクの許容範囲によって相場への対応は変わるため最適なトレード手法は人によって全く異なるからです。

では自分に最も適したトレード手法を身に付けるにはどうすればよいのか？

そのためには、次の3つのプロセスを踏む必要があります。そのプロセスとは、

**「基本」**

**「応用」**

**「洗練」**

です。

ひとつずつ説明していきましょう。

まず「基本」ですが、これは文字通り相場の基本的なテクニカル、例えば

- ・三尊を形成すれば反転しやすい
- ・ボリンジャーバンドの3σでは反転しやすい
- ・メンタル管理や資金管理といったような知識、技術

を学ぶことを指します。

投資本やネットでの情報、セミナーなどで学ぶことができるものです。

しかし、**これだけで相場で勝つことはできません**。数学で例えると「基本」は足し算や掛け算しか知らないのに大学入試に挑むようなものです。

同様に例えると「応用」が方程式、「洗練」が微分や積分といったところでしょう。トレードとは「洗練」のレベルまで達することでようやく勝負になるかどうかという世界なのです。

しかし、世の中には**「基本」だけで勝負しようとする人が後を絶ちません**。

相場の難しさをよく知らないがために、**投資本などから得た知識を使えば勝てると思い込んでしまうのです**。

人間には心理的に自分の能力を過信する性質があり、自分だけは大丈夫などと思い込んでしまいます。

最初のうちは運良く勝てても、その勝ったイメージがさらに中身のない自信を増長させ、「自分にはトレードの才能がある」などと調子に乗ってロットを増やしたところに大きく負け、退場してしまうというのは初心者によくあるパターンです。

投資本やネット、セミナーなどで見聞きした成功している人の手法をそのまま真似しようとしても、その手法は**様々なテクニカル**の網羅的な知識が**あってこそ活かせるものが大半**です。

成功している人たちは様々な手法を試し、日々何時間も相場に向かい試行錯誤を繰り返して勝てる手法にたどり着いているのです。

その道筋の途中で大量の知識と実戦経験を得ており、手法そのものはシンプル

でも裏側には膨大な努力があるのです。

優秀な手法でも相場に慣れていない人が使おうとすると知識と実戦経験の差による軋轢が生じ、失敗してしまうのです。

しかし、やみくもに相場に向かい、手あたり次第思いつく手法を試しても、感覚でトレードしてはごく一部の天才以外は勝てるようにはなりません。

勝つためには、「基礎」を身に着けた後「応用」に進まねばなりません。

「応用」は、「基礎」で得た幅広いテクニカル知識を使い実践を重ね、

**「気付き」**を得るところから始まります。

「気付き」とは例えば、

- ・ AのテクニカルとBのテクニカルは相性が良く、組み合わせることにより良いパフォーマンスを発揮
- ・ 時間帯や通貨ペアによって通用するテクニカルが違う

といったことです。

ほかにも資金管理方法との組み合わせなども大切になります。経験から得られる広く俯瞰的で具体的な「気付き」に基づいてオリジナルの手法を作っていくのです。

「気付き」がどのように相場に現れ、そこからどのような稼ぐチャンスが生まれ、稼ぐために負うべきリスクはどの程度なのかについて検証を重ね、

PDCA サイクル、すなわち

Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)

のサイクルを回して手法を改善していくことで、より手法の期待値は高められていきます。

そうして安定するオリジナルの手法というものが生み出され、相場で勝つことにつながるのです。

例を挙げると、上昇トレンド中の押し目はフィボナッチ・リトレースメントやチャンネルラインを使うことで良いリスクリワード比でエントリーできる傾向にある、という「気付き」を得たとします。

その「気付き」を基にエントリー基準や損切り幅のルールを定めて(Plan)、デモ口座や少額でのトレードで検証を行います(Do)。そして得られた結果を一つ一つ振り返り、想定通りに動かなかった場面に共通点はないか、さらにリスクリワード比を良くするために使えるインジケータはないかなどを考えていきます(Check)。

検証結果の評価から、例えばエリオット波動の5波動目とカウントできるポイントの後でのエントリーは期待値が低くなる、といった「気付き」を得たとします。

すると、エリオット波動の5波動目にカウントされる可能性が高いポイントの後ではエントリーを控える、といったルールの改善ができ(Action)、さらに手法の期待値を高められるのです。

しかし、「応用」で会得した手法も、長い時間軸で見ると日々変化する相場の中でいずれは淘汰され、勝てる手法ではなくなってしまいます。

そのため、相場の変化に適応していかなければならないのです。

それこそが手法の「洗練」であり、手法を「洗練」させることでただ勝つだけでなく勝ち続けることができるようになります。

「洗練」のためには、自分が勝てる手法を生み出したことに満足せず、**手法によるアプローチとトレードの結果とをフィードバックし、常にブラッシュアップを重ねることが大切**です。

また「基礎」「応用」に立ち返ってより有効な方法がないか模索することも大切です。

時には、1から全く別の手法を編み出すことも必要となるでしょう。

これらの「基礎」「応用」「洗練」の3つのプロセスを経ることで、ようやく相場で生き残っていける勝ち組トレーダーになれるのです。

勉強に終わりはありません。

勝ち続けるためには、日々変わりゆく相場に対し様々なテクニカル的アプローチを試み、**一定の法則を見出して手法として昇華**させることが必要です。

人間の心理は本来、トレードとはとても相性が悪いものです。

心理的に人間は**負けるとリスクを軽視し無茶な勝負をしよう**したり、**勝つと利益を守ろうと過度に保守的になって機会損失**をしたりしがちです。

また偶然大きく勝った過去の経験にとらわれ、負け続けても同じ手法を使い続けてしまうことや、苦勞して作った手法だから労力に見合う結果が出るはずだと思ひ込み、含み損になっても正常なメンタルが保てず損切りが遅れて大損してしまうことも起こり得ます。

この人間心理による数々の障害を乗り越えることが本当に難しく、多くの人はここで挫折してしまいます。

そんな人間の心理を克服し、**トレードで利益を出すためには論理的な検証による確かな期待値を持った手法が必要**なのです。

しっかりと検証により裏付けされていることで、たとえ損切りにあっても長期的に勝てることがわかっているからこそ、メンタルは安定し紛れのない客観的な精神でトレードすることができるようになります。

その手法に則り機械的にトレードをし、かつ手法がしっかりと機能しているかチェックを怠らず続けることで、初めてトレードで勝ち続けることができ、それがすなわち相場で勝つということなのです。